

長田下地域 振興会だより 第22号

2015年(平成27年)3月22日発行

平成26年度第3回 ふれあいの集い ～平成27年2月28日 下長田集会所～

風はまだ冷たいものの春の日差しを感じる午後、今年度最後のふれあいの集いが下長田集会所で開かれました。

参加者は32名(内男性7名)、8歳の男の子がぐっと平均年齢を若くしてくれました。

血压測定で安心した後に、向原駐在所の河野巡查長に向原の防犯状況について一時間近くお話をしていただきました。安芸高田市には11の駐在所と1つの交番があり、向原1600世帯を二人のお巡りさんが守って下さっています。ありがたいことに事件事案自体は少なく、このようにお話しする機会の方が多かったです。

昨年特に目立ったのが、JR周辺での車上ねらいで、ほとんどが未遂に終わっていますが、一晩で10件の被害がありました。器物損壊は安芸高田市では平成26年度は前年より4件増えて19件発生しています。

全国的に問題になっている空き家への空き巣は空き家把握の効果もあり、昨年度は一昨年の10件から1件と激減しました。もう一つがタイヤ・アルミホイールなどの金属の盗難被害です。警察の巡回だけでは限界があるので、空き巣、盗難のいずれも地域の協力と情報提供をお願いされていました。

窓を開け、閉じこもっていた人たちが動き出す春は、日が短くなる秋とともに、犯罪が増える季節だそうです。何かあった直後は110番ですが、確実なのは、安芸高田警察署(☎0826-47-0110)だそうです。

ちなみに駐在所にはお昼ご飯時が、一番電話がつながりやすいそうです。穏やかな口調の河野巡查長、ありがとうございました。

皆さんお茶とお菓子をいただきながら和やかに談笑されたあと、輪投げで盛り上がり、閉会となりました。(T.K)

この地区を担当しています

河野巡查長



当日参加の皆さん
(中川部長の開会あいさつ)



元気をもらいました!

「向原地域敬老会」開催

～平成26年10月25日 「みらい」にて～

向原地域敬老会実行委員会の主催で、見出しの会が今年も行われました。

75歳以上の方々の参加で、演芸には、前半が本町がメインの「こぼと園ぞう組の太鼓」「向原小学6年生の合唱」「向原中学1年生の丸山太鼓」「向原高校生の軽音楽」、後半からは、外部から招へいたした「広島ジュニアマリンバアンサンブルの演奏」「吉田高校生の神楽」など多彩な催しでした。

天候にも恵まれ、運営もスムーズで参加者は満足の様子でした。こうした催しに、お年寄りが健康で参加されること、そして、この場で地域の子どもや若者たちの健気な姿を見ることで、私たちも元気が出ます。演芸に出演した皆さん、そして、運営担当の皆さんに感謝いたします。ご苦労様でした。(担当T.K)



この地域からも元気な男の子も参加



この地域からも5名参加 盛り上げました

「人間ホール」開催

～平成26年11月30日 「みらい」にて～



「いやあ、十年数ぶりに参加しましたが、『人間ホール』の温かさは全く変わっていませんねえ。正直なところ心が洗われます。障がいのある子どもたちのはつらつさといい、障がいのある人たちの堂々たる演奏ぶりといい、たいしたもんです。あのころに比べたら小中学生の参加は少なくなったように思いますが、それでも日常的にひとはと交流していることがよくわかります。何と言っても人間ホールは地域の人たちの活躍ですね。ほんとにすごい協力ぶりです。ひとはの財産でしょうね。」若いころ人間ホールの

の実行委員をになってくれ、退職後夫婦そろって人間ホールに参加いただいた方と久しぶりの歓談での会話です。ご多忙の中、御協力いただいた方々に感謝、感謝です。人口も減り、高齢化も進みましたが、地域のつながりを絶やさないために振興会があり、明神クラブがあり、六風会があり、長田下地域の特色を生かした地域づくりは、これからも楽しみです。(担当B.T)

「長田下地域の文化財保護と伝承」について考える⑬

今回は、身近な文化財ともいえる広島弁（向原方言）の中の「のう」や「がんす」について考えてみることにしました。

先日、ラジオをつけたところ、アナウンサーが、

「今、動植物の絶滅危惧種ならぬ、絶滅危惧方言の保存を真剣に考えている人がいます・・・」というようなことを放送していたので、はっとしました。

日本列島の全域から見ると、北のアイヌ語や南の沖縄県八重山列島の方言が、特に厳しく、消滅する危険があるそうです。考えてみますと、わが郷土広島県向原町も、方言を使う人は少なくなってきました。

こうした状況は、公共放送のテレビやラジオ、インターネットなどの急速な進歩によって、日本語が共通化され、東京を中心とした標準語を話すようになったためでしょうか。

長田地区では、50年くらい前までは、お年寄りが出会うと、

A 「あんたァ、まめなのう。」

B 「ええ、まあ、こがァなことよのう。ぼちぼちやりようるよのう。」とか、

B 「まあまあ、元気でがんすよ。」

といった調子で、向原方言を使った、なごやかな会話がされていました。

先日、向原農協の前で、大先輩に会い、懐かしくて挨拶すると、

「おはようがんした。あんたァ、まめなかいのう。」と、声をかけてくださいました。

まだ、「がんす」とか「がんした」という言葉を使っておられたので、とても心がなごみました。

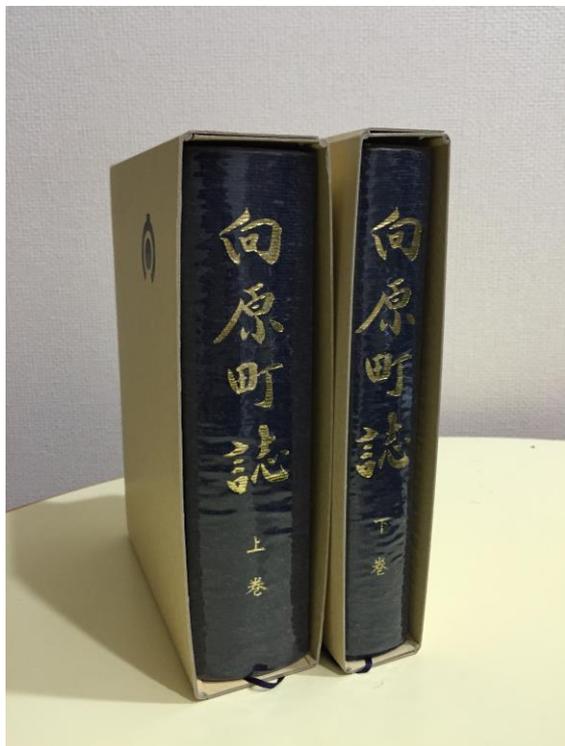
この「あつうガンス」「おはようガンス」「ほうでガンス」「なんでガンスよ」という「ガンス」は、もとの言葉は「ございます」だったのが、「ごわんす」となり、「ガンス」に変化したものと言われています。もとは、丁寧で、上品な言葉だったと思われそうですが、どういふわけか、今では使う人が少なくなりました。

民間放送局で、タレントが広島各地を巡り、名物グルメを食べた後、大声で、「うまいでガンス！」と、受けを狙ってか叫んでいます。ちょっと感覚がずれています。広島県人は、「うまいでガンス」とは言いません。「こりゃあ、うまいのう。」とか、「うもうガンスのう」というのではないのでしょうか。

かなり前ですが、NHK広島放送局のアナウンサーが、「代表的広島弁のベスト5は、『がんす』と『のう』と『じゃけえ』と『しんさい』と『わし、わしやァ』です。」と言っていたのを思い出します。そのほかに、味のある広島弁（向原方言）はたくさんあります。

さて、長田の皆さんは、どんな向原方言を大切に残されるのでしょうか。（担当F.T）

【参考資料：『向原町誌下巻、第3編方言（P509～607）』】



長田下地域人物伝⑦

長田4区の宍戸サダコ様を紹介します。

大正4年、5人兄弟姉妹の2番目の長女として安芸高田市吉田町でお生まれになり、お父様の仕事(呉の海軍工廠)の関係で、呉市吉浦へ移られたそうです。

戦時中、「産婆さん」をされておられたそうで、当時の呉は軍関係の施設もあることから、アメリカ軍B29爆撃機による攻撃もあり、そんな中でも度々お産に駆けつけられたという怖い体験もあったとうことでした。

爆撃の際は、防空頭巾をかぶり焼夷弾をかいくぐりながら、必死で避難されたそうです。数多くの焼夷弾により建物などが焼き払われながらも、生きるために、そんな中を必死で避難されたことは、言葉では言い尽くせないほどのご苦労であったことと思います。

もともとお母様のご先祖が長田にあり、こちらに住まれたそうです。当時は、がむしゃらに働く時代であって、趣味に興じる時間はほとんどなかったそうですが、70歳半ばから下長田集会所において、詩吟を習われたそうです。

お寺のお世話は、よくされておられました。そのため、前々のご住職が「長円寺のお母さん」と言われていたそうです。神戸で飲食店を営んでおられたこともあるそうで、料理の味付けも大変お上手でした。

平成26年10月16日、百歳ご長寿のお祝い状と記念品を届けに、浜田安芸高田市長が訪れられたそうです。娘さんとの記念写真には、今もお元気な宍戸様が写っております。

元々がお元気な体なので、家の中にじっとせず、外に出て草取りする日々を過ごしておられるようです。5人兄弟姉妹のうち、98歳の妹さんを含め現在3名の方がご健在だそうです。

「これからも引き続き、地域の皆様にはお世話をおかけいたしますが、よろしく願いします」と言われていました。

宍戸サダコ様の益々のご健勝をお祈り申し上げます。(担当K.M)



【お願い】 戦前の芸備線下長田駅に関する写真や資料をお持ちの方は、広報委員へお知らせ下さい。
(電話46-3099谷林、または46-4036金岡までお願いします。)